

【ピッチャーサークル】

ルールブックを見てもわかりにくいこのルールについて解説します。

ルールブック 8-6項

野球と異なり、ソフトボールには投手板の周囲に半径2.44mの円が描かれています。

ソフトボール投法にはウインドミル投法とスリングショット投法がありますが、いずれも投手は投球の際両足をプレートに置き、ホームプレートに向かって正対するため、牽制球を投げるためのセットポジションがありません。

そのため、走者の離塁はアウトとなりますが、プレーの区切りとしてピッチャーサークルは使用されます。

基本的なルール

1 打者が安打で出塁した場合

打者が外野への安打などで1塁を回ったところで、投手に返球されてきたとします。

インプレー中なので、投手はボールを持ちピッチャーサークル周辺にいます。

このとき、走者は

選択① 2塁へ進塁する

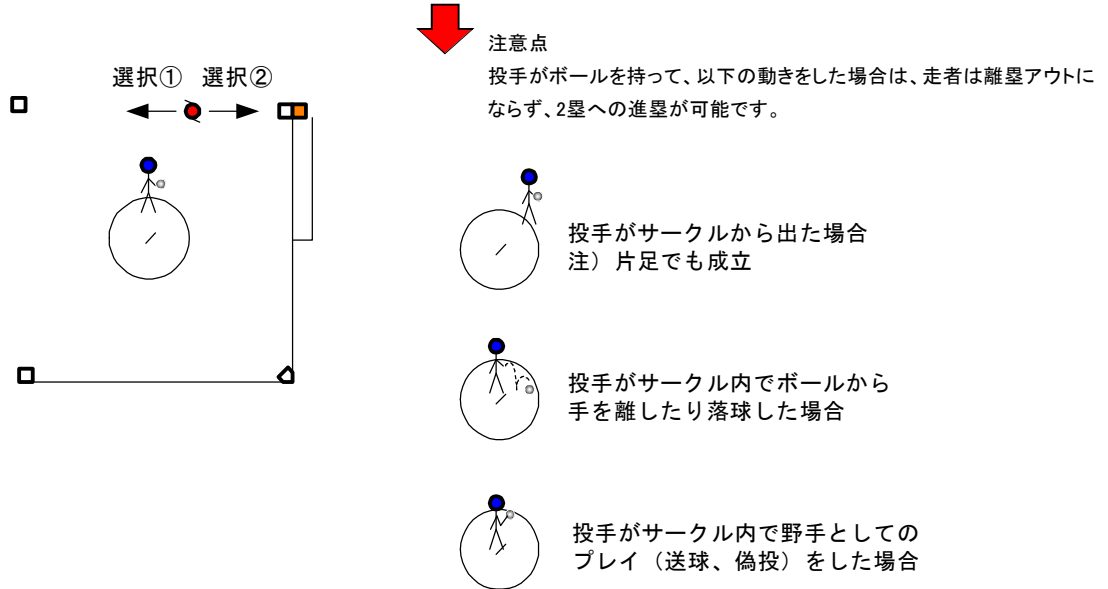
選択② 1塁へ帰塁する

どちらかの動きをとる必要があります。

投手が、走者をアウトにしようとした場合は、プレー続行です。

投手が、ボールを持ったままプレーの区切りとした場合は、走者は選択②が必須です。

もし、選択①を行ったり、投手を侮ったりするプレイをした場合は、走者はアウトとなります。



2 四球の場合

野球では、インプレーのためそのまま2塁を陥れるというケースもありますが、ソフトボールでは

離塁アウトになります。

このように、ソフトボールでは守備側がピッチャーサークルを有効に活用し、攻撃側のプレーを止めることができます。